

Effective Speech をお願いします！

西川武彦

コロナ禍で閉じ込められる中、テレビで国会答弁を聴く機会が増えた。悲しいことに、そこで目立つのは、わが国のリーダーの話し方のお粗末さだ。訥弁や訛りではない。伝える力というか、ノウハウが貧しいのである。P誌が報じるところによれば、年頭の三十分の記者会見では、答弁の語尾に「思います」とか「思っています」が三十九回もついていたとか。TVで各国の首相の記者会見を見比べることができる時代になっただけに、際立って見劣りする印象だ。

筆者が六十年余りに卒業した日英バイリンガルの大学では、教授がノートを読み上げるだけの旧来型講義は少なく、学生は自分の考えや意見を、日本語のみならず英語でも発表することが求められた。Effective Speech という喋り方の基本を習得する授業もあって、必修科目だった。これで基準値以上の点数がとれないと次に進めない仕組みになっていたように記憶している。

当時は男女比率がほぼ五分五分のユニークな大学で、中高と男子校で育った筆者は、女性がいるということだけでドキドキするのに、皆さんの顔を見廻しながら二カ国語でスピーチするのは楽ではなかったと記憶している。

ところが貿易や海外旅行の自由化などで、日本企業の海外進出が右肩上がりになる中、卒業して入社した航空会社では、その苦労が大いに報われた。卒サラ後も、各人との交流は絶えずに現在に至っている。閑話休題。

前掲の S 首相の対応だが、テレビ中継された日米首脳会談では、透明の仕切りを隔てて、バイデンさんと相対したわが国のトップは、もっぱら原稿を読むようにぼそぼそと喋っていた印象が寂しかった。

で、国に提案したいのは、衆参両院とも、Effective Speech のコースを設けて、議員に当選したら、国会に入る前に、そこで喋り方とか質疑応答のノウハウを研修することを義務付けるというのはどうだろうか。

コースでは、What, Who, When, Where, Why の5W と How の1H を軸とするスピーチのノウハウを徹底的に鍛えるのだ。英語ではなく、日本語での研修であることは言うまでもない。このエッセイが国会に届くことを願いながらペンを置きます。